

2020年6月24日 韓国環境部プレスリリース

ASF 対応のための野生イノシシ捕獲効率向上

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do?pagerOffset=0&maxPageItems=10&maxIndexPages=10&searchKey=&searchValue=&menuId=286&orgCd=&boardId=1380300&boardMasterId=1&boardCategoryId=&decorator=>

▷捕獲帳拡大設置を通じ捕獲効率の向上を推進

環境部（長官ジョミョンレ）は、繁殖期以降、野生イノシシ個体数の増加と夏の捕獲条件の変化など新たな局面に対応し、捕獲帳*拡大設置などの野生イノシシ捕獲を強化する計画だと明らかにした。

*空中にネットを設置し、エサでイノシシをおびき寄せたところでネットを落下させ、一度に複数頭を捕獲する罠。イノシシの生息密度の高い地域に設置する。

最近の ASF 陽性個体発生の統計によると、2 週間（6 月 9 日～23 日）の間に 1～3 ヶ月齢と推定される個体の死体から ASF が検出される事例が増えている。

※6 月 9 日～23 日の間に見つかった陽性死体 20 頭のうち 9 頭（45%）が 3 ヶ月齢未満
今年の春に生まれた子供の個体が群れをなして活動することにより、陽性個体発生につながっているものと分析される。

環境部は、まず陽性個体が発見されている華川*に優先して捕獲帳を追加設置するなど、段階的に拡大する予定である。

* 2020 年 6 月中に全 4 件発生（直近の発生日：6 月 14 日）

現在、捕獲帳は漣川郡に試験用として 6 つ設置されており、今年 4 月中旬に初めて設置された後、これまでに 18 頭のイノシシを捕獲した。

特に、5 月 3 日には、1 つの捕獲帳で 4 頭を同時捕獲するなど捕獲効果を示しており、イノシシの活動が本格化する 7 月以降、捕獲実績が増加すると期待される。

また、イノシシの通り道への箱罠とくくり罠の設置を拡大するとともに、餌の供給などの管理を強化し、野生イノシシ捕獲効果を高める計画である。

※箱罠：入口があるボックス形の装置で、内部に餌を設置し、イノシシを誘引・捕獲
くくり罠：地中に埋設し、イノシシが踏むとスプリング装置などが作動してイノシシを捕獲

以上